

事例研究報告

特別支援学校中学部生徒に対する 話し方の指導実践

生徒の実態

- 中学部生徒 知的障がい
- 簡単な日常会話はできる。
- 決まった台詞の発表や2択の質問には答えることができるが、自分の気持ちや体験を話したり、選択肢のない質問は黙り込んだり、教員からの支援を待ったりする。
- 分かりやすく指示をすれば、指示される内容の概ね理解することができる。
- 他者(教員や友だち)を頼りにして質問に答えたり活動をしたりすることが多い。
- 話を聞くのは好きだが、自分から話をすることには苦手意識がある。

保護者の願い

「学校で学習したことや出来事を
家で話してほしい。」

教員の願い

「自分の気持ちや体験，教員の質問に対して，
話をすることができるようになってほしい。」

アドバイザーからの助言

①書いて質問に答える経験を積んでいこう！！

ワークシートを使用することで、対象生徒が質問に答えやすい状況を作ることが大切である。

対象生徒が発した言葉は共感して喜ぶようにする。

②質問されたことを質問返しする仕方を教えよう！！

教員にどうやって質問をしたらいいのかが理解できていないため、まずは質問の仕方を教えることが大切である。

助言を受けての見直し①

○書いた内容から答える経験を積んでいこう！！

〈助言前〉

- ・その日頑張った授業や心に残った出来事を質問する。黙り込んだ場合は、答えるまで待つ。
- 黙り込んだときに教員の支援を待つ様子が見られた。

〈助言後〉

- ・ふりかえりシートを使用して、心に残った授業・詳しい授業内容・自分の気持ちを記入する。教員はそのシートの内容に沿った質問をする。

助言を受けての見直し②

○質問されたことを質問返しする仕方を教えよう！！

〈助言前〉

- ・教員が対象生徒に質問をした後，回答するまで待つ。
→どう回答していいか分からず，黙ってしまうことが多かった
そのため，教員が質問を繰り返すことが多くなった。

〈助言後〉

- ・教員が対象生徒に質問したことと同じ内容を対象生徒が教員に質問を返すように言葉かけを行う。
(例)教員「昨日のご飯何を食べましたか？」→「先生にも昨日のご飯何食べたか聞いて」と言葉かけを行う。
- ・手元に資料があれば話しやすくなるので，宿題の絵日記を見ながら，質問ができるようにする。

指導の手続き①

○書いて質問に答える経験を積む指導

・指導場面：帰りの活動

【介入】

対象生徒の活動項目

- ①ふりかえりシートを記入する。
 - ②教員にふりかえりシートの記入の確認をしてもらう。
 - ③教員がふりかえりシートに関する質問に答える。
 - ④ふりかえりシートを片付ける。
- 掘り下げた質問に対してスムーズに答えることができた場合、称賛する。

指導の手続き②

○質問されたことを質問返しする仕方を教える指導

- ・指導場面：昼休み・帰りの会の前・帰りの会終了後

【介入】

対象生徒の活動項目

- ①教員に質問された内容に答える(1～3問程度)。
- ②教員に質問された内容と同じ内容を質問する。
- ③自分で質問内容を考えて、教員に質問を行う。
(昼休みと帰りの会前は、絵日記を使用する。)

- 自分で質問内容を考えて、質問をすることができた場合、
称賛する。

記録方法と記録①

○書いて質問に答える経験を積む指導

●介入③の教員が質問したときの様子を1～4段階で、教員が主観的に評価し、記録した。

- ・書いた内容の質問に答えられない。 : 1
- ・書いた内容の質問は答えることができるが、掘り下げた質問は答えられない。 : 2
- ・掘り下げた質問の内容の一部は答えることができる。 : 3
- ・掘り下げた質問に答えることができる。 : 4

●教員が質問した掘り下げた質問内容、対象生徒の答えとその様子を記録した。

例

月日	質問の様子	掘り下げた質問	答え	様子
/	4	最後何が難しかったですか？	回るところです	堂々としていた
/	3			

⋮

記録方法と記録②

○質問されたことを質問返しする仕方を教える指導

- 介入②で質問内容や回答の内容等を記録した。 ※資料1参照
- 介入③で自発的な質問の回数を記録した。
- 指導場面の状況や時間を記録した。

例

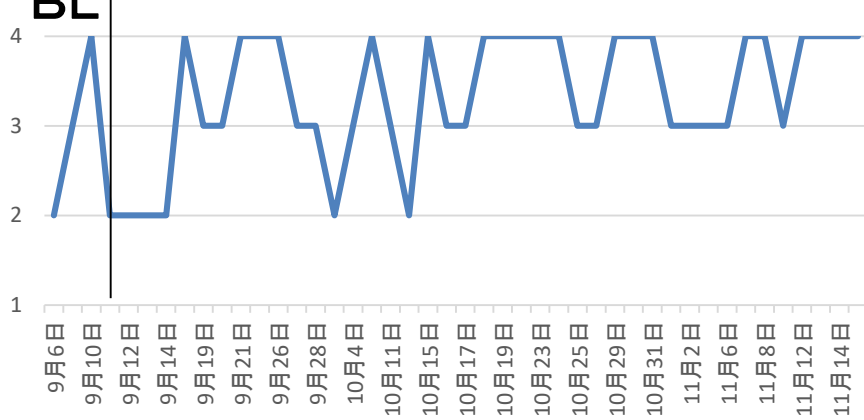
月日	自発回数	状況・時間	自発内容・質問内容・答え等
/		①朝の活動 ②帰り	①「休日何しましたか？」→「家でご飯を食べました」…
/	1	帰り	「休日何しましたか？」→…→「美味しかったですか？」 (自発的)
/		昼休み	

⋮

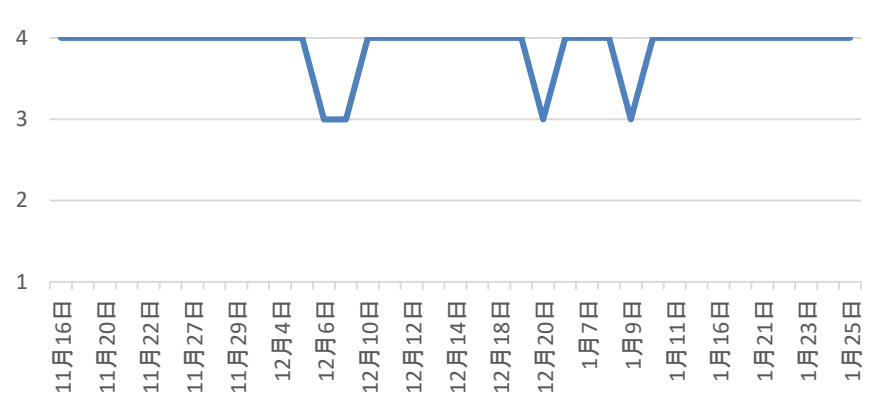
指導の成果①

○書いて質問に答える経験を積む指導

質問の様子(9/6~11/15)



質問の様子(11/16~1/25)



- 1...書いた内容の質問に答えられない。
- 2...書いた内容の質問は答えることができるが、掘り下げた質問には答えられない。
- 3...掘り下げた質問の一部答えることができる。
- 4...掘り下げた質問全て答えることができる。

- 書くことによって、掘り下げた質問の回答がスムーズにできるようになった。
- 回数を重ねることでスムーズに答えることができる日が増えた。
- 保護者との関わりでは、無視や答えられないことが多かったが、指導後は答えることができるようになった。

指導の成果②

○質問されたことを質問返しする仕方を教える指導

〈指導前〉

表情	目線	話し方・答え方等
・緊張しており、顔が引きつっていた。	・目線は下に向いており、教員と目を合わせて質問したり答えたりすることができなかった。	・質問をせず、教員の質問を待つ様子が見られた。 ・自分から質問をしようとする姿勢があまり見られなかった。

〈指導後〉

表情	目線	話し方・答え方等
・笑顔が見られるようになった。	・教員の目を見て話ができるようになった。	・自分から質問をしようとする表情や動き(あごに手をあてて考える様子)が見られるようになった。

- 質問返しの仕方を身につけることによって、少しずつではあるが、自発的に話をするようになってきた。

ここが成功のポイント

○視覚的な教材を使用したこと

ふりかえりシートの使用により、対象生徒の中で活動内容などを整理することで、掘り下げた質問に対しても答えることができるようになった。この成功体験により、自信が付き、担任以外の教員や家庭でも話すことができるようになった。

○話すことの楽しさを教えたこと

質問された内容のみ答えるだけでなく、自分から質問をして、話が盛り上がることで話すことの楽しさが少しずつ理解できるようになった。

自分から質問したり、話しかけたりすると、担任や教員から「そうそう！」「話してくれると嬉しい！」と肯定的なフィードバックが得られ、自分から話しかける喜びを感じることができたと思われる。